

一般社団法人高野町観光協会  
わたしたちの取り組み



そっと手を合わせたくなる風景がある

## 設立の経緯

平成26年4月 高野町観光協会設立準備委員会を設置

平成27年7月 1日 法人登記を行う

平成27年6月16日 橋本公証役場にて本協会の定款が認証される。

平成27年8月31日 高野町観光事業推進協議会の総会を開催し「一般社団法人高野町観光協会」へ改組改編を決定する。

※高野町観光事業推進協議会（高野町・總本山金剛峯寺・高野山宿坊協会/観光協会・高野町商工会の四者合同）にて観光事業を長きにわたり実施、活動の実績を持つ。）

平成28年1月13日 第1回社員総会を開催（役員就任）※当時

## 目的

高野町の観光振興の核となる観光協会（\*一般社団法人）設立を目的として発足。

高野町の将来を見据え、観光協会組織を見直しすることで新しい仕組みの観光展開を図る。

本観光協会は、高野町（役場）を意味する公的組織ではなく、ここでいう「高野町」とは地域の名称であり、高野町民（まちの人）が主役となる地域住民実践型の連携強化が最大の目的であり、重要と考えています。

その基盤として、本会の社員[会員]（組織構成：高野町・總本山金剛峯寺・高野町商工会・高野山宿坊協会）・山内商店・宿坊寺院・企業（山外）等との連携を密に拡大化し、観光事業の推進だけではなく、国内外を視野にした誘客事業にも取り組む方針。

観光理念・目的について、高野町の魅力を発信するため、歴史・文化・他産業との連携により波及的な経済効果を図る。

具体的な組織構成・規約・事業・予算（会費）等の協議を重ね、今後の方向性を定めるとともに地域が持つあらゆる魅力素材を掘り起こし、仕組み、企画立案、新事業の展開等、地域実践型の観光を確立させると共に活気ある地域社会を創造することにより町民生活の向上を図ることも目的とします。

## 協会組織の考え方

事業者・行政・寺院・商工・地域住民等が協働し、役割分担すること。

観光は、人々の価値観の多様化とも相まって、その範囲が極めて幅広く多岐にわたっています。

又、観光はハード面とソフト面の両方とも重要であり、多くの人に来訪してもらえる魅力的な「まちづくり」を目指します。

従って、各機関・組織が協働して進めていくことが効率的であり、全者がパートナーシップのもと協働しつつ、それぞれの分野において役割分担しながら進めていくこと、観光振興を主体的に進めていく組織づくりが不可欠と考えます。

## 各団体の機能・役割(高野町観光協会の位置づけ)

### 観光地域づくり法人 高野町版 地域 DMO (令和2年1月14日:正式登録)

【会員数】  
正会員 91件  
賛助会員 36件  
合計 127件



#### 行政(高野町観光振興課)

- ・国、県、周辺市町村の連携や事業実施
- ・一般へ高野町を幅広くPR紹介
- ・観光基盤の充実化(ハード事業:トイレ・駐車場・道路等の整備)
- ・地域振興の推進等
- ・広域観光の推進等
- ・高野山観光情報センターの運営管理
- ・住民への情報発信

高野町版 DMO  
※(一社)高野町観光協会

#### DMO事業の企画推進

- ・高野町
- ・金剛峯寺
- ・宿坊協会
- ・商工会
- ・その他

#### 総本山金剛峯寺

- ・全国、高野山真言宗末寺の宗務包括
- ・檀信徒、信者への情報発信
- ・高野山境内地の管理
- ・参拝基盤の充実化(駐車場・トイレ・参道等の整備)
- ・宗教行事、特別拝観等などの企画、実施及び情報提供
- ・一般向け法会等の実施(紹介)
- ・境内地の撮影許可等(申請窓口)
- ・信者層の獲得



#### 高野町観光協会

- ・企画、商品造成
- ・イベントの企画、実施
- ・各事業の実施
- ・情報発信、誘致PR
- ・会員との連携
  - ・営業、キャンペーン
  - ・広域観光の連携

- 事業所会員
- ・高野町
- ・金剛峯寺
- ・宿坊協会
- ・商工会
- 宿坊寺院
- 商店
- 地域企業
- その他

#### 高野山宿坊協会

※高野山参詣講(第3種旅行業)



- ・宿坊斡旋
- ・宿坊(会員)寺院のとりまとめ
- ・総合的な案内業務
- ・情報発信

#### 高野町商工会

- ・商工業推進ための事業
- ・商店(会員)のとりまとめ
- ・経営指導
- ・各事業所と連携した事業活動
- ・情報発信



作成:(一社)高野町観光協会

# 基 础 情 報

【地域DMO】一般社団法人 高野町観光協会

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 和歌山県伊都郡高野町

【設立時期】 平成27年7月1日

【登録日】 令和2年1月14日

【設立経緯】 町行政の薦めや地域の観光発展のため

【代表者】 代表理事 平田永一郎

【マーケティング責任者(CMO)】 事務局長 岡部光恵

【財務責任者(CFO)】 会計主任 岡部高子

【職員数】 5人【常勤4人(正職員2人・出向(契約)等1人)、非常勤2人】

【主な収入】 会 費19,2百万円・事業分担金7,9百円・イベント支援金5.0百万円・その他7.45百円

※令和6年期決算

【総支出】 41,1百万円(一般管理費38百万円、事業費6.3百万円、その他)

※令和6年期決算

【連携する主な事業者】

・高野山真言宗 総本山金剛峯寺 ・ 一般社団法人 高野山宿坊協会 ・ 高野町商工会

・南海りんかんバス株式会社 ・ 南海電気鉄道株式会社 ・ テレビ和歌山 ・ WBS和歌山放送 ・ 日の丸観光バス(株)

・高野山タクシー(株) ・ 南海フェリー(株) ・ (株)DMC高野山 ・ 和歌山大学 ・ 和歌山県内DMO団体、等

・高野山未来創造プラットフォーム(株)

# 具体的な取り組み

## 【観光資源の磨き上げ】

### ○地域活性化事業の展開

※心や精神性の価値創造

### ○参拝観光の体験素材づくり(充実化)

- ・報恩高野市(縁日) \_画像左
- ・大数珠繰り祈願会 \_画像右



### ○イベントの企画、開催

- ・高野山旗全国学童軟式野球大会(過去30回)



## 【受入環境整備】

- ・観光ホームページ／パンフレットの多言語化
- ・音声ガイド機導入・観光案内標識の充実整備事業
- ・公衆便所(障害者用含)トイレの整備
- ・外国人向け施設(宿坊)洋式トイレの設置等
- ・Wi-Fi環境の整備設置工事・情報の発信基地
- ・「高野山観光情報センター」の開設※高野町

## 【情報発信・プロモーション】

- 自社WEBサイト(ホームページ)の全面的リニューアル
- SNSの発信
- FM和歌山(コミュニティラジオ)/サテライトスタジオの設置
- 和歌山県と取り組むエージェント/メディア向け大商談会参加
- 「映像コンテンツを活用した地域情報発信」  
※総務省の実証事業を活用

## 【その他】地域の課題解決に向けて

- ・滞在観光メニューの整備不足
- ・来訪者のうち、宿泊割合が少ない。
- ・観光客ニーズに対応する飲食店の不足  
※昼食難民問題
- ・繁忙期の道路事情(渋滞)
- ・人手不足による受け入れ態勢悪化を防ぐ。

# インバウンド層受入れ整備 ※高野町（行政）の取り組み

## ・寺院を中心とした「高野山らしい景観」整備

- ※「高野山らしい景観」を維持継承するため、独自の景観条例を施行
- ※電線・電柱を地中化等
- ※歴史的風致維持向上計画が認定される



改修後

## ・サインの充実

- ※世界共通のピクトグラムを利用
- ※外国人観光客に訴求する多言語解説案内板の整備



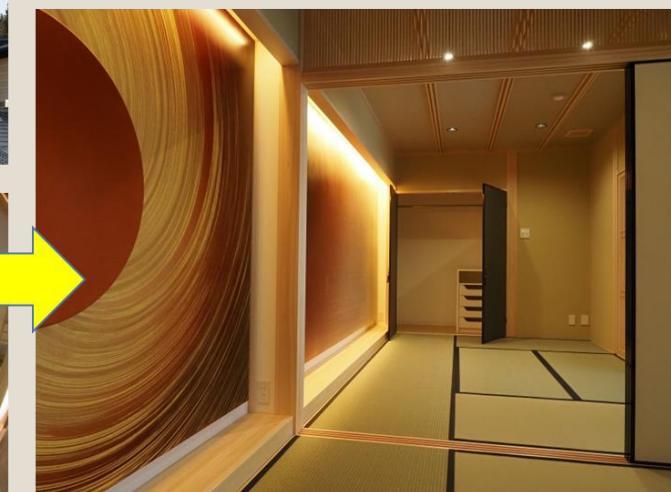
## ・Free Wi-Fiの整備

## ・公衆トイレの整備

## ・宿坊の高質化改修・感染症対策

## ・海外の街との友好都市関係締結

## ・その他



# 外国人観光客増加の理由

始まり・・・

1988年（昭和63年）、フランス「ル・モンド」紙の記者が2週間程度高野山に滞在し取材、帰国後コラム記事を連載したことでフランスにおいて高野山の名前が知られるようになる

世界遺産登録 2004年（平成16年）7月7日 「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録



フランスミシュラン社「緑のガイド 日本版」三つ星★★★評価獲得 2009年（平成21年）2月発刊

2014年（平成26年）ナショナル・ジオグラフィック・トラベラーに掲載

2015年に「訪れるべき世界20選」に日本から唯一選出

2017年（平成29年）ロンリープラネット

2018年に「訪れるべき世界の10地域のベスト5」に日本から唯一、紀伊半島が選出

2018年（平成30年）トリップアドバイザー「外国人に人気の観光スポット」ランキング2018 第7位

2018年（平成30年）NIKKEIプラス1 外国人が次に目指す「ディープジャパン」15選で「高野山奥之院」が第1位に

YouTube等を活用した海外発信（主に欧・米・豪に配信）

（平成27年度文化庁「文化芸術振興費補助金（文化遺産を活用した地域活性化事業）」活用）

※2017年（平成29年）7月～9月及び2019年（令和元年）10月～12月、JAL国際線約40路線の機内ビデオプログラムで上映



## 【高野山が持つ特徴】

- ・キリスト教（カトリック）と仏教（真言密教）の違いはあるが、根底に宗教の基盤があり「祈りの姿」に相通じるものを持つ
- ・「巡礼の文化」が根付いている

『観光を超えた深い精神性がここ（高野山）にある』

# 三者意見交換会を立ち上げ、定期的な重要会議を実施

## 趣 旨

①DMO高野町観光協会（高野町・宿坊協会・商工会を含む）、②総本山金剛峯寺（高野町観光協会正会員）、③DMC高野山（DMO観光協会正会員）の三者。

高野山で活動する外部団体「DMC高野山（レビック）」の活動事業の進捗並びに経営報告会を含めた「三者意見交換会」を行い、密な情報共有と事業連携を図ることを目的とする。

又、地域の課題や問題を討議し、解決に向けては『オール高野山』で取り組む重要会議体。

○本三者意見交換会は、「高野町参拝観光地域づくり協議会」とし、令和3年から定期的（年に数回）に開催している。



## 取り組みの裏側で直面している最大の課題

令和6年 入込客数 1,418,247人

宿泊 201,678人

日本人 95,005人

外国人 106,673人

日帰 1,216,569人

日本人 1,214,591人

外国人 1,978人

近年は、国内旅行の需要より強いインパクトでインバウンド旅行の活性が続き、訪日外国人旅行者の流入は過去最高を記録したといわれています。観光業界全体にとって国内全体が「成長」と「変化」の年になりました。

このインバウンドの急激な増加により「オーバーツーリズム」という言葉が一般化しつつあるなか国内各地で宿泊施設事情が大きく変化し、特に宿泊料金の高騰、予約困難など、有難いインバウンド需要回復の背景には、日本人旅行者への影響も大きく諸問題が浮き彫りになっています。**日本人客離れ（特に宿泊）を懸念**しています。

又、あらゆる業種で人手不足も深刻化し、限られた人員や工数の中でより効率的かつ持続可能なマーケティングの実践が求められています。

高野山においても、前述は感じるところが多々あります。しかしながら「やるべきことが見えてきた」と捉えています。

外国人の訪日ニーズは、まだまだ変化していくと思われます。「早く」「高く」予約確保する外国人需要の傍らで、日本人客、特に高野山では信者層の方々が泊まりづらく、宿泊を見合わせ近隣エリアのホテル等へ流れているのも現状です。

これら**日本人客の動きを懸念し、大きな減少に転じないよう手当てをしていくことが急務**かと感じています。

インバウンドにとっては「円安の影響で財布の紐が非常に緩くなっている」ことや、「価値のあるものなら値段を気にせず払う」といった考え方により高価格でも支払うのが現在の活性に繋がっていますが、**本来にある日本人客を置き去りにしてはいけない！**

ターゲット層を見極めて、「料金に見合った高付加価値化を徹底する」ということをポイントに「ここでしか体験できない」「ここでしか食べられない、買えない」のように価格よりも価値を重視した『唯一無二』（地域の宝）を丁寧に伝えること、が重要であると確信しています。

当観光協会の役割としては、やはり、これまでにも取り組んできた高野山のまだ知られていない価値の発掘や磨き込み等が必須で

**「参拝（手を合わせる）」の原点である「祈りや偲びを捧げる（日々の感謝やお願いをする）場所」**

だからこそ、魅力向上 に注力すべき。と奮闘中！！！

# 今、私たちが目指していること 文化庁「本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業」 (ACEプログラム) の取り組み、計画について

文化資源の体験・体感による高度観光拠点の整備・充実事業 文化庁 観光庁

## 事業目的・背景・課題

令和7年度予算額 1,272百万円  
(前年度予算額 522百万円)

- 今後の旅行・観光に関する世界的な課題を見通し対処するためには、持続可能性の確保、熟練した労働力の育成、世界的な文化交流、ポジティブインパクトのための技術活用等が、特に注目すべき取組として指摘されている。
- こうした世界の動向を踏まえつつ、併せて、我が国としてインバウンドの地方誘客を効果的に推進するには、文化庁・観光庁のこれまでの取組成果を統合し、意欲とポテンシャルの高い地域を重点的に支援し、多彩な「本物の日本文化」を体験できる世界レベルの観光拠点を形成することで、滞在期間の長期化やリピーター化を図ることが必要である。
- 併せて、文化の体験・体感の場をわが国に広く整備する観点から、日本遺産等の文化遺産の磨き上げを支援する。

## 事業内容

### ①本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業 (125百万円上限×約5件、事務局委託75百万円：計700百万円) 【新規】

#### -Authentic Cultural Experience Program for Smart-Luxury Inbound- ACEプログラム

##### (1) 文化体験を主軸とする高度な観光拠点の形成を主導する人材の確保・育成

(来訪者のニーズと現地との調整を図るコーディネーター人材や、本物の文化体験を提供する文化人材 等)

##### (2) 地域ならではの文化資源・ミュージアムの設備など拠点形成に必要な大規模な施設設備の整備

##### (3) スマートな拠点の管理運営や販路形成のためのデジタル技術の積極的な活用

※ 拠点地域から更に地方誘客するコンテンツ造成やプロモーションに係る取組は、他事業も活用して優先支援 (パッケージ支援)

※ 文化庁・観光庁の合同委員会による厳格な事業の進捗評価・審査を前提に、継続的な支援を可能とする

※ 事業採択にあたっては、民間企業との連携や国際的な認証・評価等の獲得を強く奨励し、自走化に向けた取組みを求める

### ②日本遺産等の整備・高度化による文化観光充実事業 (23百万円×約25件：計570百万円)

##### (1) 日本遺産等の便益施設や案内・解説設備等の整備、構成文化財等の活用促進整備 (宿泊・体験施設等への改修・撤去) 等

##### (2) 日本遺産の構成文化財である建造物や美術工芸品 (風俗慣習や民俗芸能・技術等に用いられる物品を含む。)、遺跡、景観地について、外観等を健全な状態に回復する工事や、カビの除去、剥落止め等の応急・緊急的な処置等を実施

※ このほか、構成文化財である祭礼等の伝統行事について、インバウンド向けの魅力向上の支援を検討

## 事業スキーム

① 直接補助 (補助率1/2(最大2/3)) 補助対象：地方公共団体、民間事業者、関連法人等 事業期間：令和7年度～ (厳格な評価を前提に継続的に支援)

② 直接補助 (補助率 1/2 (事業者の財政状況 (重点支援地域は補助率に10%加算) 等により最大2/3まで嵩上げ))

補助対象：(1) 地方公共団体、協議会、DMO等 (2) 日本遺産 (候補地域を含む) の構成文化財の所有者等、事業期間：令和元年度～

# 本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業高野山地区推進協議会を設置

(2025年7月)

## «目的»

本協議会は、高野山内の各機関が協働し、高野山において参拝観光客を惹きつける地域の魅力的な文化資源を活用し、多彩な文化体験の提供を行うことで滞在時間の延長、観光消費額の向上等を図り、地域コミュニティの維持や持続可能な参拝観光地を形成することを目的とする。

## «事業»

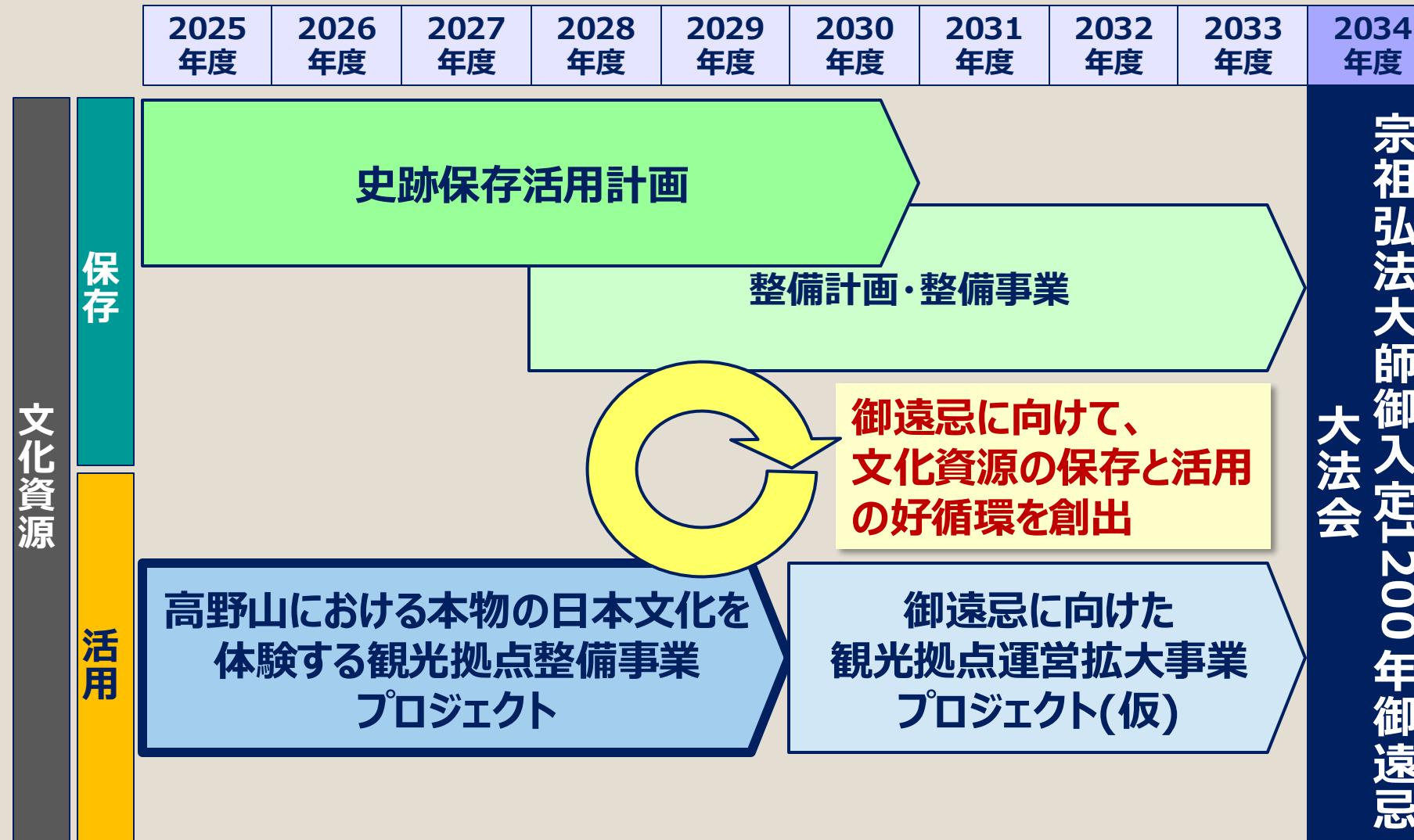
- ①文化体験を主軸とする高度な文化観光拠点の形成を主導できる人材等の確保や育成
- ②外国人観光客を惹きつける地域の魅力的な文化資源を活用した多彩な文化体験の提供に必要な施設設備の整備
- ③文化観光拠点に対する情報提供・発信の充実・強化及び文化体験や文化資源に関する物品等の販売・提供に必要なデジタル技術の積極的な活用
- ④前号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事業

## «構成団体»

總本山金剛峯寺・公益財団法人高野山文化財保存会・一般社団法人高野町観光協会・一般社団法人高野山宿坊協会  
高野山大学・高野町・高野町教育委員会・南海電気鉄道株式会社  
※会長 金剛峯寺執行長（今川泰伸） / 副会長 高野町観光協会代表理事（平田永一郎） / 監事 高野山宿坊協会理事長（田島聖基）  
事務局長 高野町観光協会事務局長（岡部光恵） / 会計 高野山宿坊協会所長（岡田洋典）

## 次の大きな行事(ご入定1200年御遠忌)に向けた本事業の位置づけ

- 2034(令和16)年度に執行される宗祖弘法大師御入定1200年御遠忌大法会に向けて、文化資源の保存と活用の好循環創出のために、金剛峯寺を中心として組織を立ち上げ、事業を推進していく。



# 文化庁補助金事業での目標 (KPI)

本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業高野山地区推進協議会 作成 【無断転載、複写複製禁止】

- 外国人観光客の満足度を高めることで、外国人観光客の入れ込みを微増・滞在日数を増加させ、日本人含めた観光消費額の増大を図り、もって文化資源の保存と活用の好循環の一環を担っていく

指標	目標値／実績値				
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
外国人観光客の満足度	90.0% /-%	91.0% /-%	92.0% /-%	93.0% /-%	94.0% /-%
外国人観光客の入れ込み数	110,000人 /-人	110,000人 /-人	115,000人 /-人	115,000人 /-人	120,000人 /-人
外国人観光客の滞在日数	1.20 日 /-日	1.25 日 /-日	1.30 日 /-日	1.35 日 /-日	1.40 日 /-日
観光消費額	40,000円 /-円	50,000円 /-円	60,000円 /-円	70,000円 /-円	80,000円 /-円

文化資源の保存と活用の好循環の一環を担っていく

# 高野町観光協会の役割

満足度や滞在日数の増加を目指し、観光消費額を上げていく、  
文化財の保存に対し、DMOとして、この資源を活用する、好循環をつくる、大きな役割である  
と認識しています。

文化資源の保存が付加的な効果を生んで、貴重な観光資源として活用していくことで、地域の  
「誇り」や「ほんまもん」を維持・継承していく。

ここにしかない「唯一無二の本物」をアピールし、興味を示してもらう、非日常を体感、  
満足する、という良い循環をつくれるよう、丁寧に整えていきます。

そして、KPIを計測、しっかりと、検証して地域で共有していきます。

又、心を動かす体験づくり=心の消費につながっていく。

これは高野山ならではの精神性も資源とする、満足度の向上に繋がると確信しています。

当観光協会が日頃より取り組んでいる「トランسفォーマ・トラベル」の目的と相まって、  
人の興味関心、知的欲求を満たす、新たな価値として丁寧に創造したいと考えています。

# トランスフォーマティブ・トラベル

「transformative」とは、  
何かを根本的に変える、または変革する力を持つ  
新しい旅のスタイル「トランスフォーマティブ・トラベル」＝「自己変革の旅」に取り組みます。

- 旅を通じて得た「学び」と「成長」等をその後の日常生活に活かし、人生観を豊かにする旅
- 刺激的で心に残る旅
- 値値観の変化や地球環境への意識の高まりを受け、「自己探求」や「精神の癒し」を求める旅
- 受け身の旅ではなく、自らが積極的に参加し、挑戦できる体験旅
- 現地の人々と交流できる旅

## 外面

- ・歴史
- ・伝統文化
- ・食文化
- ・人物
- ・自然



参詣・観光  
旅行者



## トランスフォーマティブ・トラベル

ストーリー

体験の充実

内面

- ・価値観
- ・精神性
- ・信仰心
- ・敬い心



地域の資源

高野山が持つ一番の魅力は「歴史と伝統に育まれた精神性」です。  
高野山のいたるところで感じられる静けさや心地良さが心を洗ってくれる。

# 「こころが元気になれる旅」を追求！

